

竹内清展

Exhibition of Kiyoshi TAKEUCHI



《ロマネスクの寺》1978年 油彩・カンヴァス 岡山県立美術館蔵

2022.10.4 TUE — 11.6 SUN

開館時間 9:00—17:00 (入館は閉館の30分前まで / 10月29日は19:00まで開館)

休館日 月曜日 (祝休日の場合は翌日) 会場 2階展示室

観覧料 一般350円 / 大学生250円* / 65歳以上170円* / 高校生以下無料*

*学生証や年齢を確認できる証明書をご提示ください。

◎キャンパスメンバーズの学生は無料 ◎障がい者手帳をご持参の方とその介護者1名は無料

◎特別展「岡田三郎助と佐賀ゆかりの美術—佐賀県立美術館優品選」のチケットでもご覧いただけます

〔主催〕岡山県立美術館 〔助成〕公益財団法人福武教育文化振興財団

〔後援〕岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、岡山県郷土文化財団、公益社団法人岡山県文化連盟、一般財団法人岡山県国際交流協会、山陽新聞社、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送



岡山県立美術館
OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



1



2



3



4



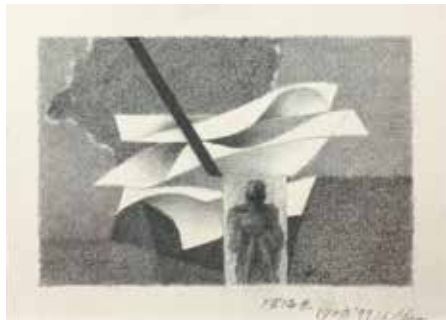
5



6



7



8

洋画家として、デザイナーとして。

戦後岡山を切り拓いたその足跡を辿る。

岡山市出身の竹内清(1911-2008)は、京都高等工芸学校(現・京都工芸繊維大学)図案科で学びながら、関西美術院でも絵の研鑽を積みました。在学中に二科展に初入選し、演劇にのめりこんで舞台美術にも熱中した京都時代を経て帰岡後は、戦争を経験したのち、天満屋宣伝部に勤めてデザインの仕事を数多く手がけつつ、二科会会員になるなど洋画家として活躍します。さらに岡山大学やノートルダム清心女子大学で長年教鞭をとって後進の育成にも尽力しました。

本展では、1970年代のヨーロッパ外遊以降の、キリスト教美術に影響を受けた寒色を基調とする静謐な油彩画を中心に、京都高等工芸学校時代の学びが垣間見える課題制作、戦後の新聞小説の挿絵やデザインの仕事、多数のデッサン帖などを展覧することによって、戦後岡山の美術界を牽引し、県下のデザイナーの草分けとしても活躍した竹内の多彩な仕事を紹介します。

【関連イベント】 参加無料

美術館講座「竹内清と中世キリスト教世界」

日時 10月29日[土] 14:00-15:30

場所 地下1階講義室

講師 橋村直樹(当館学芸員)

定員 50名(事前予約申し込み先着順)

申し込み方法

電話 | 086-225-4800

メール | 件名に「竹内清展 美術館講座 参加希望」、メール本文に(1)参加者氏名、(2)連絡先を明記の上、kenbi-entry@pref.okayama.jpにお申し込みください。

【交通案内】

JR岡山駅後楽園口(東口)から 徒歩|約15分

路面電車 | 東山行「城下」下車徒歩約3分

岡電バス | 藤原団地行「美術館前」下車すぐ

宇野バス | 四御神/瀬戸駅/片上方面行「表町入口」

徒歩約3分

※ご来館の際はできる限り公共交通機関をご利用ください。



岡山県立美術館

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648

<https://okayama-kenbi.info>



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期や内容等を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページをご確認ください。

1《鳥》1931年 墨・顔彩・紙 京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵AN. 5245-21 / 2《レオン・バクスト「バレエ『ナルシス』衣装デザイン」模写》水彩・紙 個人蔵 / 3《夜景》1949年 油彩・カンヴァス 岡山県立岡山朝日高等学校蔵 / 4《夕刊岡山連載 中田多香史・長連太郎『竹内加賀介』挿絵原画》1952年 インク・紙 岡山県立美術館蔵 / 5《キカイ》1959年 油彩・カンヴァス 岡山県立美術館蔵 / 6《雨の日》1980年 油彩・カンヴァス 岡山県立美術館蔵 / 7《ヴェネツィアある日》1981年 油彩・カンヴァス 京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵AN. 3305 / 8《『デッサンII』より「深海魚(80P) '97 16Jan.」》1997年 鉛筆・紙 個人蔵